

アイスゲットルール

公式ルール集に載らない細部について、公式ルールと合わせてご確認ください、意思統一を図っていききたいと思います。

1. ファウルについて

間接ファウル

- ①ハイスティック（パスやショットで大きく振り上げたり、空中に浮いたボールをスティックで叩き落とす行為）
※滑るなどしてスティックを振り上げた場合はノーファウルとする。
 - ②ダウン・ザ・プレイ（スライディング、寝ころびながらのプレーは禁止。片膝が立っている状態であればOK）
 - ③フォーリング・イン・ザ・ボール（足で押しつぶした場合）
 - ④サッカーのように足で蹴る行為は間接ファウルとする。（足元に止める程度は認める。）
 - ⑤手で空中に浮いたボールを弾き返した、方向をコントロールした場合は間接ファウルとする。（浮いたボールを足元に落とす程度のみ可とする。）
- ※①～⑤全て間接フリーショット（直接ゴールは認められない）としてファウルがあった地点からリスタートする。

ペナルティショットファウル

- ①インターフェアランス（ボールを持たない選手のプレーを妨げる行為。また、相手選手へ危害が加わらないものでも、危険なプレーと判断される行為）
例プレーに熱くなってフェンスや氷をスティックで叩きつける行為。また、非紳士的なプレー態度や暴言を吐くなどの行為。（この場合は行為の程度から判断し、PSを与えずに注意だけに留めるなど、審判の裁量によって柔軟に対応する必要がある。）
- ②スラッシング（スティックで相手を引っ掛けたり叩いたりする行為）
※程度にもよるが、腰より下に引っ掛けた場合は間接ファウル扱いとし、腰より上の場合には怪我に直結する危険性があるのでPSファウルとする。腰より下でも叩きつける行為は即PSとする。
- ③チャージング（故意に相手を押すこと。）
※滑って相手にぶつかった場合はノーファウル扱いとなる。ただし、選手が体を痛めるなどして、「瞬時にプレー続行が出来ない状態にある場合」は怪我の防止のため、一度プレーを止めるようにする。この場合のリスタートは中央からフェイスオフとする。

次ページもご覧ください→

2. キーパーについて

- ①手と足は自由に使えるが、ゴールから概ね3 mの範囲内とする。
※明確なラインは無いので審判の裁量となる。
- ②手で抑えつけたときや、ボールが体の一部に隠れてプレーが止まった時は、相手チームからのコーナーストロークとする。
- ③ペナルティショット時のポジションはゴールラインから1 mの範囲内とする。

3. その他

- ①フリーショットやコーナーストロークのとき、味方選手・相手選手ともにボールから3 m以上離れなくてはならない。
- ②ゴールから3 mの範囲内で間接ファールがあった場合は、ゴールから3 m離れた地点から間接フリーショットとする。(ゴール中央からファールがあった地点の延長線上の3 m離れた位置)
- ③今大会は、トーナメントで引き分けの場合は3対3のPSとする。3人でも決着が着かない場合は4人目、5人目が出てきてのサドンデスとする。(プレイヤーの5人が終了して決着がつかない場合は1人目に戻って続ける。)

4. 副審の役割について

- ①選手交代の確認 ②得点板の管理 ③タイマーの操作
 - ④ボールをフェンス外へ出したチームの確認 (リスタートチームへ位置の指示)
- ※試合中の交代は自由なので、副審は選手交代を告げられやすい位置にいること。(プレー中の選手が出てから控え選手が入るようにする。)
- ※審判講習会では、副審も主審と同じようにジャッジをしておりましたが、二人の審判が並行してジャッジすると、試合中のジャッジの基準が曖昧になる可能性があり、選手の混乱を招く恐れがあるので、上記①～④が副審の主の役割となります。ただし、主審が気付かない場所で、明らかに試合を止めなくてはならない事態が起きた場合はホイッスルをお願いします。また、試合中の選手からの申し出は主審に寄せられると思いますが、主審一人では判断つかない場合は副審も加わって協議して下さい。